

1. 「まいど1号」の初期チェックアウトフェーズの運用概要

衛星各機器の機能性能は、全て順調

<確認済みの機器>

- GPS 受信機【正常】
- モニタカメラ【正常】
- VHF 広帯域波形測定器（雷観測基礎実験）【正常】

2. 衛星状態

2月12日 VHF 広帯域波形測定器用のアンテナを展開

2月15日現在

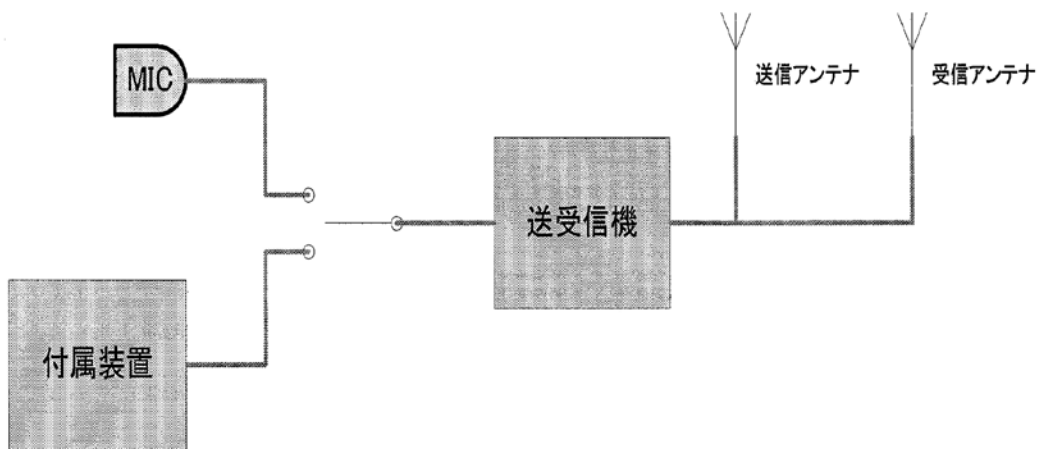
- ① 発生電力：50～60 [W]
- ② 太陽方向(スピン軸に対して上部から)：37 [deg]
- ③ スピンレート：27 [deg/s] = 4.5 [rpm]

3. 今後の予定

- 2月中旬～3月中旬；レーザ反射体（レーザレンジング）
- 3月中旬～下旬；アマチュアバンド通信/精太陽センサ

注1：衛星に搭載のレーザ反射体の地上からレーザを照射する測距技術を用いて衛星の軌道を決定する。2月中はJAXAの装置を用い、3月からは海外の装置での計測も行う。搭載GPS受信機の測定値と比較し、精度の検証を行う実験。

注2：大阪府立大学が開発したストリング方式太陽センサの軌道上試験を行う計測データはアマチュア無線により送信され、大阪府立大学および東大阪の地上局で直接受信する。



付属装置の仕様
方式 AFSK方式
通信速度 1200ボー
信号構成 AX.25プロトコル準拠
副搬送波周波数 1700Hz
周波数偏移 $\pm 500\text{Hz}$

図 1 大阪府立大学アマチュア無線局